

【第3回定例会 2023年9月】

英語教育において市が最大限にできることは？

答弁＞

ALT（外国語指導助手）の1名増員と教員免許所持者について検討する。

時差の少ない地域の国との交流や、児童生徒に目的意識が生まれ、取り組みに意義や意味、必然性が生まれる仕組みづくりができれば。

市内の教員を対象としたミーティングにて、交流学習以外の取組みについてその内容を検討。

学習に関するアンケートの中に、子どもたちの外国語に関する学習活動への願いや思い、困りごとを把握する調査の実施についても検討したい。

新利根中学校の英語授業を見学し、一般質問させていただきました。その後は、江戸崎中学校の英語授業も見学しました。稲敷市内でALTが育つしくみを整えたいですね(^▽^)/今年の稲敷市の英語教育、とても楽しみです！

姉妹都市交流についての現状は？

答弁＞

現在サーモンアーム市と、事業の再開に向けて協議中。

コロナで途絶えてしまった交流の復活を多くの方が待ち望んでいます。

円安のこの時期に、是非サーモンアーム市長にお越しいただきましょう！

市長の英語教育におけるビジョンを具体的に

答弁＞

特に小中学校において、英語によるコミュニケーション能力の育成について改善を加速すべきであると認識している。英語教育を推進することで、予測困難な時代、先行きが不透明な未来を生きていく子どもたちに必要な力を付けさせていきたい。

稲敷市における少子化対策への取組について伺います

答弁＞

結婚相談会、稲敷市結婚新生活支援事業などの事業を継続しながら、結婚の機会を提供し、事業を積極的にPRしたい。

雇用の確保をするため、さらなる企業立地に向けて、現在整備中の工業団地の未分譲地や稲敷東IC周辺エリアのPRに努める。

妊娠・出産・子育て支援事業として、保護者の経済的負担の軽減等のみならず、保護者のニーズを踏まえ、総合的に推進していく。

病児保育・病後児保育事業の新たな受け皿について、関係機関で病院を運営している園などと引き続き協議しながら、受け皿の確保に向けて取り組む。

多子世帯への支援について、近隣市町村の動向等を見ながら第2子、第3子の支援拡充について検討していく。

子育て支援住宅の実現に向けて、導入可能性調査に着手したところ。市街地整備の計画的な推進をしていく。

2050年には人口が約半分になってしまう予想が出ています。住み続けられるまちづくり、空港との共存共栄には英語教育の充実も必要……。課題は山積ですが、一つずつ丁寧に取り組んでいきたいものです。



【第4回定例会 2023年12月】

成田空港周辺対策交付金が、過去どのように使われてきたか
また今後の交付金の使い方について

答弁＞

交付金は、航空機による騒音等に生ずる障害の防止、空港周辺地域の整備等の事業を行う地方公共団体に対し、成田国際空港株式会社から交付される。本市も合併当初より毎年度交付されている。

交付額の推移は、平成25年度は2億3,700万円、平成31年度は2億2,200万円と概ね横ばいだったが、空港が機能強化を図った令和2年度には従来の交付金が増額されたほか、新たに教育、医療、社会福祉に活用できる「地域振興枠」が創設され、3億6,700万円と約1.5倍に増加し、令和4年度も同額が交付。

本市において過去、交付金をどのような使途に活用してきたについては主に

- ①江戸崎、新利根地区の教育施設等の維持管理費や整備時の償還費
- ②新利根地区の住宅防音工事、空調施設維持管理費等の航空機騒音対策事業
- ③航空機火災等に備えるための消防施設整備費
- ④騒音区域等や成田国際空港へアクセスするための道路改良工事費

のほか、地域振興枠としては、体育館におけるトレーニングマシンやバスケットゴールの購入、小学生を対象とした航空学習事業等に活用してきた。